

湯浅良雄・野崎敏郎『卒論のためのワープロ・パソコン』

全国大学生活協同組合連合会、1994.6、p.246

早稲田大学大学院 太田 博子

近年、ワープロ・パソコンでの論文執筆が普及、定着してきた感が大である。そうなると、多種多様なその機能を使いこなさなければならない。少なくともワープロは、自由自在に利用できなければならなくなる。本書は、こうした機器の選び方からはじまって、実際に論文の執筆、完成にいたるまでを丁寧に解説している。学生、そして大学院生のための、論文の作成プロセスにそった参考書といったものである。

論文作成のプロセスは、アウトラインの決め方、文献・資料の準備、テーマの最終決定、執筆であるわけだが、テーマを決めるまでが、学生にとっては大変である。第一部「パーソナル・コンピューターを活用した卒論のすすめ」は、テーマの決定に悩む人にとって、重宝なアドバイスが満載である。実際に書きはじめたら、脚注、目次作成機能、ノート挿入機能、表や図形の貼り込み機能についての説明を適宜読むことをおすすめする。アウトラインの整理については、アウトラインプロセッサの利用が前提になっているものの、もし利用しない場合にも、項目が階層的に整理された図表は大いに参考になる。カード・メモのとり方なども、整理下手な人にとっては特に役立つ。本書の特徴は、実用書としての利用価値とともに、各章の独立性にある。湯浅氏の担当部分は、経済学専攻のゼミナール生向け、そして、野崎氏の担当部分は、社会学専攻の学生へのものがもとになっているため、興味のあるところだけ、たとえば社会学専攻であれば、「執筆の実際(1)基本編」から、読むという便利な使いができるのである。